

簡素に 利害ある人抜きで

二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの主会場となる、新国立競技場の当初案が白紙撤回されたことを受け、今後の競技場のあり方を考えるシンポジウムで、どうする「新国立競技場」が二十日、東京都港区で開かれ「簡素だが洗練された施設を」などの意見が発表された。写真。

登壇したのは、東京都の担当課長として一六年五輪の招致活動に関わった順天堂大客員教授の鈴木知幸さんや、社会経済学者の松原隆一郎さん、神宮外苑の景観問題を訴えてきた作家の森まゆみさん、建築エコノミストの森山高至さん、一二年のロンドン五輪で会場設計にかかわった建築家の山寄一也さん。

鈴木さんは、近くに新設する秩父宮ラグビー場を活用し、陸上の

で、どうする新国立



識者ら5人シンポ

サブトラックの常設化を提案。五輪後の競技場の民間委託をうたった政府の基本方針には「さまざま

な方式があり、十分議論すべきだ」と訴えた。

森山さんは「利害関係者の意見を入れようとするとスタートが切れない。可変性を担保した最低限の施設で、まずスタートを切ればいい」と提案した。

山寄さんは、鉄パイプと布で作ったロンドン五輪の馬術会場を引き合いに出し「ロンドンは金をかけなくても魅力ある街並みを借景に成功を収めた。簡素だが洗練された施設は日本でもできる」と訴えた。シンポジウムはシンクタンク「構想日本」が主催し、約百四十人が参加した。

新国立競技場の建設をめぐることは、月内をめどに政府が新たな整備計画を策定する予定で、九月下旬にも設計・施工一括で発注する公募を始める。

プロスポーツに 新国立を活用も

文科相

下村博文文部科学相は二十日のBSフジ番組で、二〇二〇年東京五輪・パラリンピックで主会場となる新国立競技場の大会後の運営に関し、「(一九八四年開催の)ロス五輪のメーンスタジアムは商業スポーツが活用することで成り立っている部分がある。わが国でも野球、サッカーも含めて収益の上がるもので活用することを考えることも必要」と述べ、プロスポーツによる活用も検討すべきだとの考えを示した。

また、「できるだけ国民の税金投入をゼロにするようなスキームで、収益の一部が国に上がってくるような発想をすべきだ」と述べた。